

## 第23回定例委員会議事録

1. 日時 昭和31年4月20日(金)午前 10.15 ~ 12.00

### 2. 出席者

石川、藤岡、有沢、湯川(代井上専門委員)各委員  
佐々木局長、島村総務課長、堀 管理課長、鈴木アイソトープ  
課長  
山百、倉本、荻谷、根岸、肥田、井原、松友、田中、福永、山  
崎

### 3. 議 事 及 方

- (1) 31年度基本計画について
- (2) 補助金の募集要領及び交付要領について
- (3) アイソトープ関係専門委員の送達について
- (4) その他

### 4. 配分資料

- (1) 31年度基本計画について
- (2) 補助金募集要領(案)
- (3) アイソトープ関係専門委員候補者(案)
- (4) 重水売買契約テキストに関する回答
- (5) 長期エネルギー需給想定の問題点
- (6) 世界の原子炉表(原子カメモ第2号)
- (7) その他

### 5. 審 議、決 定 及 び 報 告 事 項

- (1) 原爆実験影響調査について

藤岡委員より至過を報告、発表文につき検討を加えなが、委  
員会名は除き今後の措置は厚生省に委せることに決定した。

(1)

c111-009-004

- (2) 3/年度原子力開発利用計画について  
局作成の原案につき説明、検討を行ったが、結論に到らず、次回以降引き続き検討を加えることになった。
- (3) 長期エネルギー需給見直しについて  
資料につき概要を説明承認された尚参与会に配布検討することとした。
- (4) アイソトープ関係専門委員の選定について  
原案につき検討の結果承認決定された。
- (5) 3/年度補助金について  
原案につき検討し承認、決定された。
- (6) 重水購入について  
資料につき説明承認された。

### 6. 議事経過

(1) 原爆実験影響調査について  
その後の経過について藤岡委員より次のような報告が行われた。

(藤岡) 船が仲々ない、結局水産庁のシモンゴツ丸となった。学生が3人下関に行った。技術顧問団を厚生省において技術関係及び乗組の人送等を行う。団長は私が引受けたが了承されたい。しかし検出氏が副団長で実際の仕事をやる。この結果を発表し声明を発表する必要があると主張し原案を私が承った。委員会の名が出ているが……私も厚生省にやらせるつもりでいるが、皆委員会でやるというが……

— こので案文を朗読 —

次いで以下の論議が行われた。

(島村) 委員会と各省と並べるのはどうかと思って藤岡委員に申し上げたが……中頃までは従来のことと暫くなら

一町差支えないと思う。あと「前回同様といえない……」とあるが、措置が完全でないと思われる。ネズミに調査して万一異常を認めるときはその検出はありになりその間の不安に対する保証がない。結論として信頼はよということがこれらの措置文では云えないのではないか、その意味から委員会でこういうことを云ってあと保証の措置がとれない。

その程度の措置しかとれないことについては疑問がある。

(藤岡) 厚生省に任せよう。たゞ委員会としては出すことに承認しよう。

(有沢) 学会誌は研究報告を出しているか。

(藤岡) ボツボツ出している 論文的に……

(有沢) それを全面的に認めることは……どうか

(石川) この間は皆この議論であった。危険はないという……

(有沢) 声明の前半をいうと、協試会自体がこういうことを云っているか、何々の学者が云っているのか 文句が出たとき困らないか

(藤岡) 性格さ、厚生省が云うべきだ。

(鈴木) 厚生省に連絡しよう。

(有沢) 恐怖を起させないことの方が大切

前段は協試会がそういつているならよい。たゞ協試会そのものがそういう決定をしているのか

(松友) この許容量について日本での定説はない。

一昨日の委員会で決りかけ厚生省がその責任で決定することになっている。

(藤岡) 厚生省に委せよう 団長は技術顧問団の団長だ。

この発表とは関係ない。

(島村) 調査をやるということについて藤岡委員が委員会の名において世話することになった。しかし行政措置はそれ委託に任せたらよい。

(有 沢) 少し委員会にオンブしすぎている。  
(藤 岡) とにかく今までの結果今後の措置について発表することを話してほしい。

できれば次官会談の決定を見てから発表したらよい  
今度の若しストロンテウムがあるだろうということが  
問題だ。たゞ始からカウントがなければ大丈夫だ。

以上で声明中には原子力委員会の名は入れず措置は厚生省に  
委せることに決定した。

(2) 3/年度原子力開発利用計画について

島村総務課長より資料につき一応の案にすぎない旨説明を  
朗読した。次いで

(島 村) どの程度の具体性をもつものにするかこれが原案作成  
のとき問題となった。中味については4月末までに3/  
年度の計画を立てるに当り主要な英を引抜いてそれで  
3/年度計画を作るということになったが、両方の関係  
で逆に3/年度の計画を作りこれをまとめたらと考えた。  
それはまだ試論中のものもある。

— 次いで内容につき概要説明 —

(石 川) この程度の程度でよからう。

もう一つ加えたいのはアタッシェができるこれを活用す  
ることを入れたらよい。

海の燃料の問題について民間を奨励するということを入  
れたらよい。

核融合の問題は大問題だ。それと同時に基礎的研究をや  
ることが必要だ。基礎的研究をやるということも書いた  
らよい。

書き方の問題として発電関係を一つの項としてキチツと  
やる。皆少しあれて、いるようなので---

整頓でなく調査、研究に重点をおくと書いたらよい。

(4)

(藤 岡) その方がよい。基礎的研究及び調査だ。(有 沢・石 川  
同意)

(有 沢) 基礎研究等をはっきり先に書くもし導入がW、Bの輸  
入等をさすものならばはっきりそうと書いたらよい。

(石 川) "積極的に"という文句はとつたらよい。

(藤 岡) "積極的に導入"というはNAAとの動力協定を奨励  
するという凡にとられる。

"材料の国産化"について私は国産化は材料であるが裁  
減装置も含めて云つたらよい。たゞまれにしか使われない  
ものはよいが---

(石 川) 装置を入れるなら裁減の大きさが違うので標準会談で  
規格を決めたらよい。内容のこまかいことではなく外形に  
ついて---

(佐々木) 至週規定 --- つまり3/年度がどういう意味をもつ  
た年かという特性が余り出ていない。

方針であれば、むしろ養成なら基幹委員はこういう方法  
でやるとか --- これがないと来年になっても同じこ  
とではないか---

(石 川) 問題が多くてもう少し進まないといけない。

(藤 岡) 当分毎年同じようなものだ。

(石 川) 一通りずつとやって総合的にもどって検討したらどう  
か。

(有 沢) (6) は要るのか

(島 村) 立教ははっきりしないが、京大のは予算についている。  
必ず何らかの仕争が3/年度にある。これが具体化する  
ば3/年度の建設計画に入れる必要がある。

— 次いで島村総務課長より"計画の内容"について説明 —

(石 川) W、B、は3/年度末となっている、N、A、A、で  
どう作るか、日程、その間日本をやること等についてA、  
B、Cの三案をもつて来た。

(5)

A案では組立と運家とが重なる。これではよいだろう。  
CP-5は今の所燃料は又kg しかし40日の運転で灰  
を出す。もっと連続して運転するするにはもっといいが  
いる。こう細くかゝれるとあとで困る。5000kgは書か  
ない方がよい。

(前岡) 10<sup>14</sup>というこじ式が大切なのだ。

(石川) ではデテイルは書かずに ---

— 各委員会録承 —

次いで島村総務課長より資料「問題点について」を説明

(石川) この問題は委員会として云うのはどうかと思う。

今これを作り動かすことを考えているが、動かないこと  
もあるのではないが、現在1万kWの5つの設計がある。  
制薬装置など全々考えていない。先づこれについてヒヤ  
リンクをしたい。それからあとのことを定めるべきだ。  
又発電までには30億円かかる。動かないと大変だ。よく  
設計したのを聞いて感得と感ったとに始めてやるべき  
だ。

私は5万kWなど絶対反対だ。1万kWの設計がせつか  
く出求めているのでこの事情を聞いてそれにより決めるべ  
きだ。

(佐々木) CP-5までは要論はないか

(石川) ない

(佐々木) それ以上は奈く検討すべき問題だろう。

(石川) 何kWなどということは決めず、検討して行く

(島村) 然しあとの響いてくるが ---

(石川) 33年までに同産炉で作るということはよい。

(島村) 1,000kWと10,000kWとでは材料の程度も違ふと  
いうことになる。目標が失われる。

(石川) 試験する器機は置かない

(藤岡) 今まで決めた計画はそう変えない方がよい。

主なものは冷却だ。やるからには相当大きいものをやる  
ことがよいが ---

る劣しなければ作る意味はない。又運技術が、重水、  
一天然気を作るということまで来ているので、よくよくの  
ことがなければ変えない方がよい。

(石川) 今まで出求ているのを検討するのが順序だ。

(藤岡) それはよい。結論的には今まで通りのをやると共に、  
とにかく黒鉛炉を一つ加えることを希望する。それは重  
水炉は日本の産物だ。ノルウエーと同種日本では重水は  
見込ありしかし量は少い。そこで重水を輸出してそれを  
いう考え方が早くからありそれ以降何とはなしに重水一  
天然気と決った。

将来発電を考えるとわからない。スラフアイトに目をつ  
けなかつたのは盲算だ。厚約として大きく取上げなければ  
ならないのはアイトースの生産だ。二つ作ると一つ  
はアイトース専用 年々5億円に上るとなれば理出  
になる。このような考方もできる。

(石川) 賛成だ。一つだけにこだわることはない。

(島村) 検討するというのが先取りして考えると天型炉一重水と  
ならないかも知れない。目的の関係からどういう程度の  
ものを幾らつくるといふのもわからないといふのでは関連工  
業をどうするかか31年度差当つても困つて了う。

(藤岡) 差当りは今までの計画を覆えない方がよい。アイト  
ース生産炉は遅れでもよい。

(佐々木) 今目決めるのは無理だ。差当つては従来の方針通り、  
変更されるという念をを持たせる。急に結論をつける必  
要はない。

(堀) 機械は大して違わない。問題は黒鉛を作ると、モデ  
ラーとして音成するかが問題だ。重水は将来とも必要が

ありとすれば設備投資が必要だ。これがメンテナンスと  
なる。冷却燃料系統とは種類、数量にかゝりない。そ  
の時期が多少問題だ。

- (島村) 重水は生産設備までやる必要なしということになる。
- (石川) ユニットさえきちんとしておけばよい。
- (堀) 一回だけいるということだと困る。
- (有沢) 長期計画との関連だ。アベコベだから決りようがない。
- (島村) ノヘマヶ月ではできない。
- (有沢) それならホカしておくより仕方がない
- (佐々木) これは参加会に出すが
- (島村) 原案としてなら出して試論してもよいと思う。参加の  
意見を聞く。大いに試論してもらう。

— 委員了承 —

- (佐々木) 重水は国産炉大のものが、フリーターに確実にいるも  
のか
- (藤岡) それのはつきりしない。
- (堀) 設備投資をやるかどうかだ。
- (藤岡) 誰にも云えない。少くとも船の炉にはいるだらう。  
エコノミーの問題だ。イギリスではやめた。大量は問題  
だが再生の必要もあり、日本でもある程度の設備をもつ  
ことはよい。
- (堀) 低濃縮が問題だ。
- (島村) 途中だがこれはこの辺で止める。
- (3) 長期エネルギー需給の見通しについて
- (島村) 公益事業着、資源調査会、電気事業連合会で作成した  
見通しについて局で問題点をひろった。御一読願いたい。
- (石川) 参加会に出して検討したらよい

— 参加会に出し検討することに了承 —

- (4) アイソトープ関係専門委員の選定について  
原案につき鈴木課長より説明

- (石川) 農業関係はもう少しないかもう1人位
- (佐々木) 生物関係を...
- (石川) むしろ植物関係を...
- (佐々木) 田宮 博氏だ
- (藤岡) 農でもし何なら村地氏だ一応この程度で妥しにしよう  
この程度でよい。
- (石川) 任期はどうか
- (島村) 仕事がすむまでだ。2~3月で仕上げることを考えて  
いるが

— 以上で原案を了承 —

- (5) 3/1年度補助金について  
堀課長より案につき説明
- (堀) テーマについては了解をえたものと考えているがよい  
か

— 了承 —

- (有沢) 応募資格は
- (堀) 誰でもよい 技術経済的に能力あるものが事実上  
公務員、国家機関はできない。

- (6) 重水購入について  
資料につき島村課長より説明了承された。  
以上で12.00散会